

TT250R用エンジンの紹介

Introduction of Engine for TT250R

高橋 克至*

Katsushi Takahashi

1 まえがき

当社は、XT250T以来、長い間沈黙を続けてきた250ccフルサイズの4サイクルトレールモデルに、'93年4月、TT250Rを投入した。「ピュア・オープン・エンデュロ」をキーワードとし、走破性、取扱い性、信頼性といった各項目を根本から見直し、「本物」をめざしたモデルである。以下に、このモデルを実現する為に新設計したエンジンについて紹介する。

2 概要

エンジン構造を図1に示す。エンデュロに適した軽快なハンドリングを得る為、徹底したコンパクト設計を行ない、理想的な車体ディメンジョンの成立を実現した。軸配置の見直しで、前後長を大幅に短縮したクランクケースや、カムスプロケットの小径化とカム軸受の配置の工夫で実現した小形のシリンダヘッドは、この代表例である。

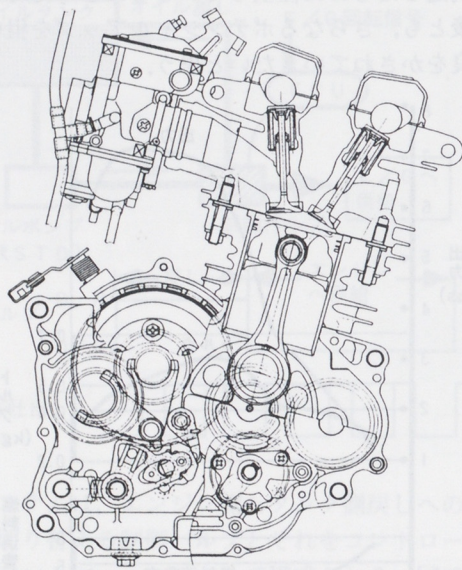


図1 エンジン構造

性能曲線を図2に示す。最高出力のみを求めるのではなく、エンデュロマシンとして重要なトルク、ねばり、レスポンスなどに重点を置いた性能特性としている。ポートや燃焼室の形状、各部軸径の見直し等による効率の追求や、新設計したキャブレターのベンチュリー形状の選定、加速ポンプの最適セッティングなどによって、この特性を実現している。

更にこのエンジンでは、ライダーの疲労低減も重要な項目と考え、エンジンマウントの選定による振動低減や、セルフスタータの採用による始動操作の容易化も計っている。

3 むすび

発売以来、市場でも好評を博しているが、これに満足することなく今後も熟成を続け、進化する息の長いエンジンにしたいと考えている。

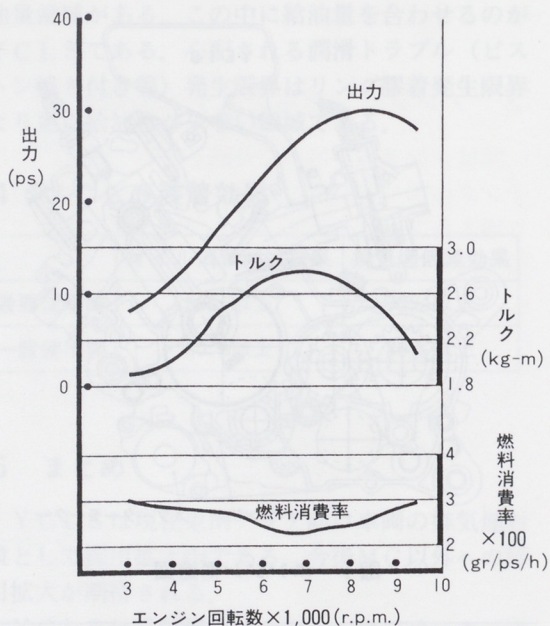


図2 エンジン性能曲線

* モータサイクル事業本部第4開発部